

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	古き良き時代から現代へ
別タイトル	Department of Anatomy: From the good old days to the present
作成者（著者）	佐藤, 二美
公開者	東邦大学医学会
発行日	2023.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 70(1). p.32-33.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2022-042
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD56476296

古き良き時代から現代へ

解剖学講座生体構造学分野

教授：佐藤二美
 准教授：川島友和
 講師：星 秀夫

解剖学講座は、本学創立の翌年1926年に、西成甫（～1946、1962～1966）、森於菟（～1961）両教授によりその礎が築かれた。その後2講座に分かれ、解剖学第一講座として、幡井勉（～1962、1965～1983）、橋本長（～1990）、岸清（～2005）教授が主宰した。2005年、基礎医学講座再編により解剖学講座生体構造学分野となり、佐藤二美が赴任し、現在に至っている。当分野は、教育として解剖学を担当し、分野内に東邦大学白菊会事務局がある。

研究

現在取り組んでいる主な研究テーマは以下のとおりである。

1) 網膜の局所神経回路に関する研究

「見る」という行為は、色・コントラスト・動き・方向など複数の視覚的側面を同時（並列）に捉えることで遂行される。この並列情報は、脳に到達する前に、網膜の局所神経回路で個別に処理されている。我々は、細胞内注入法・免疫組織化学的手法を用いた形態学的手法とパッチクランプ法を用いた電気生理学的手法を併用して局所神経回路を構成する神経間の結合様式を詳細に研究している。

2) 網膜の発生に関する研究

網膜は5種類の神経細胞と1種類のグリア細胞(ミュラー細胞)より構成されており、遺伝子が適切に制御されることで各種細胞に分化する。我々は主にマウス網膜や培養系を用い、免疫組織化学・分子生物学・バイオインフォマティクスの解析手法により、網膜発生における転写制御メカニズムの解析を行っている。

3) 局所解剖学研究

心臓の内在性制御構造である刺激伝導系と外来性制御構造である自律神経系の形態に関して、局所解剖学的、比較解剖学的、組織学的ならびに画像解剖学的手法を駆使して解析を行っている。それらの立体配置や解剖学的多様性を、個体発生・系統発生的な観点から理解を試みるととも



教室員集合写真（2022年10月、解剖学実習室にて）

に、多様な研究領域に活用可能な形態学的データの供給を最終的な目標としている。

教 育

当分野は肉眼解剖学と神経解剖学を担当しており、実習は教室員全員で対応している。研究と教育内容の乖離が大きく研究業績が求められる時代にあって、全国的に解剖学教育の人材不足が問題となっているが、当分野では全員が実習指導経験を積み、実習の質を担保している。実習室は2008年にホルマリン被曝に配慮した換気システムを導入し、ICT設備も整備された。現実習ではご遺体のCT撮影を行い、学生は剖出した構造物と画像を比較しながら解剖を進めている。

実習用ご遺体はすべて本学白菊会登録者による献体でまかなわれており、2名の技術員により献体業務は円滑に行われているが、その負担は大きい。献体登録者の死亡（昼夜を問わない）に際しては、迅速かつ適切な対応が求められるが、マニュアル化された形では対応出来ず、肉体的・

精神的負担となっている。生前の検査データが乏しいことも多く、遺体の防腐処置では感染症の危険と隣り合わせである。教室員も遺体業務の一部を分担しており、教育負担は大きい。ここ2～3年、全国でご遺体の取り違いや遺体処置の不履行等、大きな問題が発生している。技術員の確保も円滑な実習を行う上で大きな問題である。

最後に

当分野は基本的には自主性を重んじ、それぞれが興味をもったテーマに従って研究を行っている。しかし献体関係の業務、教育関連行事負担も多く、教室員同士の意見交換を密にし、相互に協力する体制をとっている。学問体系として伝統ある「解剖学」も、現在では純然たる形態学から変化しており、伝統を引き継ぎつつも時代の変化に合わせてながら、歩を進めている。

(佐藤二美)

DOI : 10.14994/tohoigaku.2022-042